

こんなことあったよ！レポート

平成21年2月14日～15日

ストップ温暖化「一村一品」大作戦2009全国大会 編

木質土木構造物研究会&木高研



ステージで組み上げる木製ダム段ボールの製作風景。



ステージでの発表の様子。すぎっちもりっちも応援に駆け付けました。



BS-i のインタビューを受ける佐々木会長。関心の高さが伺えます。



みごと特別賞の受賞です。



斉藤環境大臣との記念撮影。快く引き受けてくれました。



なんと司会の櫻田さんは能代出身！受賞をとっても喜んでくれました。

2月14日に環境省が主催する、ストップ温暖化「一村一品」大作戦2009全国大会へ、木質土木構造物研究会（会長：佐々木貴信准教授）が秋田県代表として参加し、「秋田スギの木製ダムでCO₂ダイエット」というテーマで研究の取り組みについて発表をしてきました。

この研究会は産学官が連携して組織し、木製ダムをはじめとする土木構造物の設計、施工、維持管理に関する技術開発や普及を行っています。従来鉄やコンクリートで施工されている治山ダムを再生産可能な資源である木材で施工することで、炭素を長期間にわたって固定でき、その量は1m³あたり200kgになります。たとえ廃棄されたとしても元々吸収した二酸化炭素が放出されるので、二酸化炭素収支はプラスマイナスゼロ（カーボンニュートラル）になります。秋田県ではこれまでに約50基の木製ダムが施工されていますが、木製ダム1基あたりの木材使用量は約150m³であるので、約1500tの炭素を固定してきていることになります。

今回の発表では、「すぎっち」、「もりっち」も応援に駆けつけて、実際の木材と同じ大きさの段ボールをステージの上で木製ダムを組み上げ、観客にアピールしました。そして、その効果もあってか、特別賞「木づかい土木賞」を受賞することができました。今回の参加で我々の活動を広く知ってもらえるととてもよい機会となりました。

文：金高 悟